

Hypoglycemia in Laparoscopic Colectomy with Remifentanil Use and Preoperative Intravenous Glucose Infusion: a prospective, randomized, single-blind, controlled trial

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金森, 理絵 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.20780/00032174 |

様式 (6)

学 位 審 査

| | | | |
|---|------------|-------|-------|
| 学 位 番 号 | 乙 第 2948 号 | 氏 名 | 金森 理絵 |
| 審 査 委 員 会 | 主 査 教 授 | 山本 雅一 | |
| 論文審査の要旨 (400 字以内) | | | |
| <p>【対象・方法】腹腔鏡下大腸切除術を受ける患者40名に経静脈的糖質投与が周術期代謝へ及ぼす影響を検討した。術前の絶飲食かつ術前までブドウ糖150g加細胞外液投与群 (G群20名) と無糖細胞外液投与群 (NG群20名) の2群とした。主要評価項目は周術期血糖値、手術侵襲の評価としてアドレナリン、ノルアドレナリン、ドパミンとコルチゾールを測定した。麻酔法は吸入麻酔薬とレミフェンタニルによる全身麻酔、輸液は無糖細胞外液、手術終了時より硬膜外鎮痛を開始した。【結果】血糖値は、NG群で麻酔導入後に有意に低下し、術中では40mg/dL以下1例、60mg/dL以下6例を認めた。G群では認めなかった。両群ともにストレスホルモンの増加はなかった。【考察】低血糖の原因は、低侵襲手術、レミフェンタニル及び硬膜外麻酔による十分な疼痛管理によると考える。術後インスリン抵抗性の予防として術前糖質投与が推奨されるが、周術期低血糖予防にもその重要性が認められた。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p> | | | |